

沼田貞昭オーラル・ヒストリー

別冊資料

本別冊資料は、『沼田貞昭オーラル・ヒストリー』作成にあたって沼田氏から提供を受けたり、聞き取りのために収集した諸資料をまとめたものである。オーラル・ヒストリー本文の理解をより深めることを目的として、沼田氏のご了解を得て、リポジトリ上で保存・公開することとした。

本別冊資料は3つ資料群から構成される。

第一に、沼田氏が現役の外交官時代に作成した資料である。ここには、沼田氏が首脳会談の通訳を務めた鈴木善幸総理訪米時の手書きのメモと、スポークスマンとしてのキャリアに関する資料が含まれている。1981年の鈴木訪米は、首脳会談後に発表された日米共同声明にある「同盟」という言葉をめぐって鈴木と外務省との間で齟齬が生じ、伊東正義外相と高島益郎外務事務次官が辞任したことで外交史上、有名である。この手書きメモには、通訳として臨んだ首脳会談のやり取りや現地での鈴木と外務省幹部による事前の勉強会の様子が書き記されており、鈴木訪米時の外交の内側を示す重要な資料である。同時に、外交文書として浄書される前の「マナ」の記録が公開されることは珍しく、その意味でも貴重な一次史料といえよう。なお、この手書きメモには他の会談の通訳メモも含まれている。

もう1つは、外務省のスポークスマンとしてのキャリアに関する資料である。沼田氏は1991年から2000年にかけて、外務省副報道官（1991～1994年）、外務省報道官（1998～2000年）を務め、在英国特命全権公使（1994～1998年）としても頻繁に英国メディアの取材に応じた。そうした経験を踏まえて退官後に沼田氏が作成した能動的な対外発信の在り方をまとめた文書と、英国で行ったインタビューや講演のリストを手書きメモとともに保存・公開することとした。これらの資料は本文中でもしばしば言及されているので、該当箇所を読む際には適宜参照していただければ幸いである。

第二の資料群は、インタビュー時に沼田氏が使用したスライド資料である。本オーラル・ヒストリーは2019年4月に聞き取りを開始したが、第6回インタビュー（2020年1月）後は新型コロナウイルス蔓延により約半年間の中断を余儀なくされた。同年7月の再開後も対面での聞き取りは難しく、2020年11月の最終回（第11回）までzoomを用いたオンラインでのインタビューとなった。オンライン・インタビューは、沼田氏が準備された詳細なスライド資料を見ながら進めたが、本資料群はそのすべて（第7回～第11回分）のスライド資料を保存・公開するものである。スライドの中には、INFやSDIに関する米国とのやり取りなど、沼田氏が当時の手帳を基に記載した情報も多数含まれており、史料的な価値も高い。また、本文中には沼田氏がスライドの内容を説明しながら話が進んでいく部分があるが、そうした箇所はスライド資料も見ながら読み進めていただければ幸いである。なお、

第10回、第11回に掲載されている画像はすべて出典元より掲載許可を得ている。

第三の資料群は、日米首脳会談など1970～80年代に開催された日米会談を記録した外交文書であり、沼田氏が通訳として立ち会った歴史的な会談が多数含まれている。2000年代以降、情報公開法に基づく開示請求や公文書管理法に基づく外交史料館への利用請求によって、戦後期の外交文書が大量に公開されるようになった。その一部は外交史料館のウェブサイトで閲覧することができるが、必ずしも体系的に公開されているわけではない。ここでは、沼田氏が直接・間接に携わった1970～80年代の日米両国間の会談記録をできる限り網羅的に収集・公開した。本文中で言及されている日米会談の詳細を知りたい方はぜひこの外交文書にアクセスし、一次史料に触れてほしい。別掲のリスト（「別冊資料 外交文書（日米会談）リスト」）には会談日や主な議題、文書の出典を記載してある。なお、この外交文書（日米会談）は便宜的に7つのファイルに分割して保存ある。

提供資料のリポジトリ公開をご快諾いただいた沼田氏には改めて御礼申し上げます。

この別冊資料が『沼田貞昭オーラル・ヒストリー』を手にとっていただいた方々の理解を助け、また実証的な戦後日本外交史研究の発展の一助となれば幸いである。

「核不拡散体制の成立と安全保障政策の再定義」プロジェクト